

すくすく

たけのこキッズ

第 8 号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成16年12月 8 日発行

感染症はまだ秋の気配

12月に入りましたが、インフルエンザの流行はまだのようです。一方で葛城保育所では手足口病、木島保育所ではおたふくかぜが流行しています。また、前号で取り上げた溶連菌感染症もまだまだ多いですし、そこにウィルス性胃腸炎（嘔吐下痢症）も増えてきています。

手足口病

手足口病は、主として夏季に流行するウィルス感染症で、口の中の粘膜および手足に現われる水疱性の発疹を



主症状とします。発疹は、手足全体さらにおしりにも見られることがあり、写真のように指紋などの方向に若干楕円形を呈するのが特徴です。原因となるウィルスは1つではなくコクサッキーA16、エンテロ71およびその仲間のウィルス（エンテロウィルス群）の感染で起こります。複数のウィルスが原因となりますので、何度でも（1シーズンの間にでも）かかります。

治療方針としては「そのまま様子を見る」のが一般的です。すなわち薬は原則的に不要です。発疹は3～4日程度で吸収されます。口内炎については軽度の痛みとそれに伴うやはり軽度の食欲の低下（おなかはずくが痛みのために食べられない）程度ですむことが大半です。水分だけは積極的にとり、さらに可能であれば刺激になりにくい柔らかで薄味の食べ物をとれば良いと考えます。微熱が見られることもありますが、解熱剤が必要な発熱になることはまずありません。まれな合併症としては髄膜炎がありますので、ひどい頭痛・嘔吐・高熱が見られたときは早めの医療機関の受診が必要です。

原因となるエンテロウィルスは主な症状が消失した後も3～4週間は糞便中にウィルスが排泄されることがあるので、手足口病から回復した患者も、長期にわたって感染源となりえます。このため、発疹のある時期だけ登校登園停止にする意味は全くありません。予防としてはしっかり手洗いをするだけなのです。すなわち登校登園については、流行

阻止の目的というよりも患者本人の状態によって判断すればよい（普通のカゼひきと同じ）のです。



解熱すべきタイミング

高熱により脳がやられるとあって心配される方があります。しかし、40℃程度の熱では平気です。本来発熱は細菌・ウィルスなどに対する生態防御反応の一つです。したがって発熱しているのをむやみに平熱に戻さなければならない理由は全くありません。からだの中の免疫力は発熱しているときのほうがアップしています。これを下げるということによってかえって病気の回復を遅らせたり、こじらせたりする場合があります。こういったことから一切解熱処置してはならないと言う小児科医もおられます。



でもぐったりとしている子供を見るのは親として辛いものでしょう。また水分もとれないほどぐったりしてしまったら、いくら免疫がどうのこうの言ってもやはり少しは熱を下げてあげた方がいいと私は考えています。そこで、私は熱を下げるべき基準と目標を「高熱のため、ぐったりして水分さえとれない場合にその症状が改善するまで」としています。すなわち39～40℃程度であっても結構元気で食欲も落ちていない場合には、熱を下げる必要は全くないと考えます。逆に38℃程度の熱で、ぐったりしている場合には脱水やさらに重大な病態が隠れていることもありますので、自宅で解熱処置をしているのではなく早めに医療機関を受診すべきです。

BCGは済みましたか？

平成17年4月1日から改正された結核予防法が施行されます。これにより現在は「4歳の誕生日前日まで」受けることのできるBCG定期接種が「6か月未満まで」に大幅に短縮されます。その後に接種する場合は、自分で費用を出して受ける任意接種の扱いになります。このため今までBCG接種をしたことのない4歳未満の乳幼児は、来年3月末日までにできるだけ早くBCG接種を受けておきましょう。よくわからない場合は市や町の担当課または院長にご相談下さい。

貝塚市健康推進課（電話：33-7000）

岸和田市立保健センター（電話：23-8811）

熊取町健康課（電話：52-1001(代)）

BCGは乳幼児結核の予防効果に優れた安全な予防接種です。特に抵抗力のない赤ちゃんは、感染すると結核性髄膜炎や粟粒（ぞくりゅう）結核といった命にかかわる重症の結核を発病しやすいのです。大阪は日本で一番（世界的にみても有数の）結核の多い地域です。そういったことから、BCGの接種はお忘れなきように。